
青輝のラジエル設定集

秋月スルメ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青輝のラジエル設定集

【Nコード】

N6208T

【作者名】

秋月スルメ

【あらすじ】

青輝のラジエルの設定集です。おもに世界観などの説明がなされています。たぶんネタバレを含みますので読む際はご注意ください。

第一 仮想空間技術とアルカディア（前書き）

最初の設定はSF風味です。残念ながらファンタジーではありません
ん……。

第一 仮想空間技術とアルカディア

VRMMOアルカディア

世界初の仮想空間技術を使用したオンラインゲーム。中世ヨーロッパを基本とした雰囲気ファンタジーMMORPGである。広大無辺なフィールドと、数えきれないほどの数を誇るスキルや職業を特長としていて、プレイヤー人口は全世界で数億人いる。システム的にはレベル制とスキル制を併用したキャラ成長を採用していて、個々人の趣向に合わせたプレイが楽しめるゲームだ。

このように世界中で人気のアルカディアだが、実はもともと仮想空間の大規模利用を試験するための国家プロジェクトで開発されたという経緯をもっている。そのため莫大な開発費用の一部は政府資金から捻出されており、さらに運営は政府系通信企業。そのため管理がお役所仕事だったり……。

このアルカディアのメインコンピュータには世界初の高次元量子アルゴリズムを利用した最新型量子コンピュータ、セス・システムが採用されている。そのため膨大なデータを持つアルカディアでもスムーズな管理運営が可能となっている。

仮想空間技術（VR技術）

脳に神経接続し、疑似神経パルスを送ることによって五感を再現する技術。ただしアルカディアに採用されている技術はそれだけではない。アルカディアの場合、人間の脳と量子的に重なり合った状態にある意識体「アストラル」もセスと接続することで、第六感と呼ばれるようなものまでをも再現している。

この量子的存在である意識体「アストラル」は一般的に「魂」と呼ばれるものではないかとされている。そのためこの技術の開発に関しては根強い反発があり、テロなども発生した。だが、最終的には情報技術立国を掲げる政府の方針により押し切られた。

量子意識体「アストラル」

一般的に魂と呼ばれる存在。おもに脳と量子的に重なり合った状態にあり、それ単体では三次元空間に安定的に存在することができない。人間の脳の力オス演算系を支えているとされ、これがあることにより人間の感情や個性が生まれてくる。第六感と呼ばれるようなある種の超越的感覚もここからきている。

アルカディアでは、これを特殊な通信回線によりセスと繋げることで現実と感覚的にもまったく同じ世界を再現している。気配や雰囲気、そういったものまで現実そのままなのだ。

第二 アルカディア世界の地理

ロランシア大陸

アルカディア世界において二つある大陸のうち一つ。古くはガルシア大陸と呼ばれていた場所である。非常に大きく、地球のユーラシア大陸より広い。おもに温帯気候に属するが、ほかにも寒帯、冷帯、乾燥帯など様々な気候がある。四角形に近いが四隅が突き出したような形をしていて、とくに西側は東側より大きく張り出している。

ゴンドワナ大陸

ロランシア大陸の南に位置する大陸。中央は原生林が生い茂る未開の地で、沿岸部に人口が集中している。さらに北方の海が丸ごと魔海域と呼ばれる危険な海であるため、訪れるのは新天地で一獲千金を目指すアウトローやお尋ね者などばかりである。

ラース王国

ロランシア大陸のほぼ中心に位置する国家。立憲君主制を採用していて、権限が弱いながらも議会があるのが特長。国土はおもに草原で水や食物が豊富である。そのため国力も高く、国民も豊かだ。ただし最近は隣国であるコルリカ帝国があやしい動きを示している

ため、一部でそれが不安視されている。後述する大陸国家機構の理事国の一つ。

主人公が降り立った最初の国がここ。彼の所属するギルド、青の旅団本部もこの国にある。

コルリカ帝国

大陸北方に位置する大国。絶対君主である皇帝が治めている。国土は山がちで、歴史的に鉄鋼業などが盛んな工業国。そのため軍事産業も根強く、現在では大陸最大の軍事国家だ。ただし、それは通常兵力（非魔導士）に限定されているため、他国への侵攻はまだ行われてはいない。この国も大陸国家機構の理事国。

メスフィカ皇国

商業国家。おもに国土の南方に位置するメルカト諸島の国との貿易で栄えている。大陸にある有力な財閥はだいたいこの国が発祥であり、国土は比較的狭いものの発言力は強い。有り余る資金力にものを言わせて、攻強皇國騎士団と呼ばれる通常兵力では最精鋭となる師団を保有している。大陸国家機構の理事国の一つ。

イリス王国

大陸最西端となる砂漠の国。国土の大半が砂漠のため碌な産業がない。そのため国としては貧しく首都に巨大な貧民街まである。だが人口はかなり多いため、その潜在的な軍事力などは侮れない。

シールミル教国

大陸最大の宗教である、ビリア聖教の興した国。教皇により統治されていて、表向きは理想国家とされている。ただし、その実態は極端な重税を敷く圧政国家。しかし、国を支配する教団の神官たちはほぼ全員が聖職者らしく清貧であり、教皇自身も贅沢はしていない。さらに軍事や公共事業にもほとんど金をかけてはいない。つまり、搾取した税金の大部分が使途不明となっている……。

中央都市国家群

ラーズ王国とコルリカ帝国のはざまに存在する小規模国家の群れ。大半はそのどちらかを宗主国として仰いでおり、ほぼ属国状態。

メルカト諸島

統一的な国家が存在しない。小規模な国、もしくは都市同士が互いに百年以上にもわたる戦いを繰り返している。文化的には東洋的で、中には日本によく似た文化を持つ場所も存在する。

エルフ自治領

大陸東側にある大森林地帯の大半がこれに指定されている。亜人の中でもっとも人口の多いエルフのために大陸国家機構が定めた。自治領といっても実質的にはエルフの王国であり、しかもエルフ以外の亜人も多数居住している。いわば、亜人の楽園的な土地。

モストニア魔国

大陸最北端の極寒の地域。国といっても名前だけで実際には誰も居住してはいない。一面雪原が広がる不毛の大地で、この場所に侵入した人は全員が原因不明の体調不良に襲われてしまう。なので調

査はまったく進んでおらず、何があるのかすらまだよくわかっていない。

大陸国家機構

大陸にあるすべての国家や自治領が加盟する国際機関。表面的には全加盟国の参加する総議会、理事国のみ参加できる理事会により意思決定をして、おもに大陸の平和を維持している。だがその行動にときおりきわめて恣意的なものがあるため、第三の議会があるのではないかというのはもっぱらの噂。

世界中の魔法を管理する魔導書管理協会がその傘下に入り、魔導士を統括することができる。そのため魔導士からなるきわめて強大な機構軍を保有。ゆえに軍事力を背景として権限は強く、世界政府のようなものだともいわれている。

第二 アルカディア世界の地理（後書き）

攻強皇國騎士団はネタであります。……さて、元ネタわかる人いるかな？

第三 魔法と魔導書（前書き）

この作品の魔法はエセ科学チックです。
その点はあらかじめご了承ください。

第三 魔法と魔導書

魔法とは何か？

ロランシア大陸における魔法とは魔力と魂（設定集第一のアストラルをロランシアではこう呼び、アストラルとは言わない）を用いて世界を改変する技術である。具体的には魔力をもって事象を「仮定」し、それをアストラルで観測することにより「具体化」させる。つまり「あると仮定された事象」を高次元存在であるアストラルで観測することにより「本当にあることにする」技術が魔法なのである。

仮定する事象の規模が大規模になればなるほど、膨大な魔力と事象を仮定するための演算出力が必要となる。そのため普通の人間では一定規模以上の魔法の行使は難しい。そこで登場するのが後述の魔導書なのである。ちなみに、カイルが大規模な魔法を使用できる理由についてはまだ明らかになっていない……。

魔導書

本来の正式名称は「汎用書型戦闘兵装」。だが古代文明滅亡以後、現文明においてはその名称で呼ばれることはほとんどない。魔力を生み出すためのジェネレータと魔法行使の核となる高性能演算回路を持ち、使用者の戦闘を総合的に補助する。魔法行使以外にも戦闘のさまざまな面でバックアップすることが可能だ。具体的には制御用・演算用の高性能コンピュータである「ソリッド・クリスタル」と動力炉である「ミューオン・マナジェネレータ」、さらに防御の要となる「クレセリヲ・フレイム」を備えている。また、それ自身も書型から武器形態へと変化することができる。

自己成長、自己修復機能を備えていて、所有者と精神接続でひとつになる。精神レベルで一体化した所有者は魔導書の成長がフィードバックされて身体能力が上がる。さらに魔導書自身も戦闘用プログラムを自己進化させることにより新たな魔法を生成するなど、その成長の可能性については限界がない。

また、Fゲージ・システムにより動力源と人間の精神を直結させることで一時的に大幅な出力向上が可能。理論上、所有者側の精神状態次第で無限に強化が可能だが、人間の肉体や精神の都合上、百五十から二百パーセント前後までが限度とされている。

この兵器のもともとの開発者は古代文明人であり、当初は戦争目的で開発したのだとされていた。だが、最近の研究では文明自体に対する外敵への抵抗手段として開発されたのではないかとされている。ただしほとんどの魔導書が本棚のような場所に格納された状態で発見されたため、開発したもののそのほとんどが実戦投入される前に文明が滅んだとされている。なお、この外敵についてはドラゴン族が有力視されているが実態はまったくもって不明。

ミューオン・マナジェネレータ

魔導書の動力源となる装置。空間中に膨大な量が存在するマナ粒子から魔力を発生させることができる。その仕組みは単純で半虚数粒子であるマナ粒子に融合反応を起こさせることによって、虚数エネルギーの一種である魔力を発生させる。この際にマナ粒子同士を引き付けるための触媒としてミューオンと呼ばれるマナ粒子ときわめて似た性質をもつ重粒子が使用されており、それがこの装置の名前の由来となっている。このミューオンを生成するための仕組みが人間の精神に依存しており、ゆえに所有者の精神状況次第で出力が

大幅に上下するという特徴をもつ。

ソリッド・クリスタル

魔導書のすべてのシステムを統括する中央演算装置であり、さらに事象を仮定するための演算処理も行っている。宝石のような形をしていて、なぜか戦闘形態時には表面の目立つ部分に宝飾品のようにあらわれる。その演算能力は量子コンピュータに匹敵するが、その内実については一切が不明。自己修復能力を備えていてある程度の損傷までなら回復が可能である。また、内部に自己進化プログラムに似たものがあるとされ、新たに魔法を生み出したりより高度な戦闘補助が可能となったりする。

この演算装置はきわめて高性能ではあるが、管制用のいわゆるAIに当たるようなものは搭載されていない。だが、一年間に数名ほど「魔導書の声を聞いた」などと訴えるものがある。オカルトじみた話ではあるが、魔導書にはメカニックな面以外にも何かあるようだ……。

なお、魔導書の装置や機能についてはほかにもクレセリヲ・フレームやFゲージ・システムがあるが、作中に登場したこと以外でとくに追記することがないため省略とする。

マナ

宇宙を満たす暗黒物質の一つとされており、実数空間においてはニュートリノと似たきわめてよく似た性質をもつ。あらゆる物質を透過してしまうためその観測は困難だが、水晶を透過する際に強い光を発するためそれで空間中のマナ粒子濃度を判断する。

実数物質でありながら虚数的性質をもつ半虚数粒子と呼ばれるきわめて特異な物質。そのためこれを使うことにより初めて、虚数エネルギーである魔力を生成することが可能となる。なので魔力の生成には必要不可欠なのだが、その地表面における濃度は上空の電離層の状態に左右されるためばらつきが大きい。この濃度のとくに高い場所を人間たちは俗に聖地と呼ぶ。

魔力

マナ粒子を利用して生み出される虚数エネルギー。これを用いることであらゆる事象を仮定することが可能となる。虚数エネルギー全体の性質として演算によって影響されやすいという性質をもっており、魔法が虚数エネルギーである魔力を必要とするのはこのため。

第三 魔法と魔導書（後書き）

パソコン上に文章として挙げてみると、予想以上に科学してる……
精霊さんとか世界の加護とか出なくてほんとにすみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6208t/>

青輝のラジエル設定集

2011年6月4日12時09分発行